

宮城

MIYAGI

震災から6年を迎えて

宗教法人 西方寺 総務部 勝又 忍

未曾有の被害をもたらした東日本大震災からまもなく6年を迎えようとしています。

この震災では19,400名以上の方がお亡くなりになり、未だに2,500名以上の方が行方不明になっています。

定義如来西方寺では、震災直後から震災の犠牲となられた方のご供養として「東日本大震災犠牲者ご回向（えこう）」の受付を始めました。平成29年1月20日現在で3,511名の方のご回向をさせて頂き、今後も受付を続けさせて頂きます。

ご回向の受付では、同級会を行うので同級生の供養をしたい。〇〇会の会員を供養したい。毎年行っていた親族会だったので親族の供養をしてほしい。家族を供養したい。親友を供養したい。恋人・婚約者の供養をしたいなど様々な犠牲者の供養を受付させて頂きました。そこには等しく大切な方への供養の気持ちが溢れ、ご回向中には涙される方も少なくありませんでした。

このお申し込みを受けて私どもは亡くなられた方の安らかなご冥福とご供養される方の心の安らぎ。また、一日も早く普通の日常生活が戻ること、更には前進への力添えになることを深く祈念してご回向させて頂いております。

さて、定義如来西方寺自衛消防組織では東日本大

震災以前は、火災に備えて主に防火に対応した訓練を行い、消防技術研修会や優良事業所視察研修会に参加する等の職員の防火に対する意識向上に努めてまいりましたが、震災後は新たな取り組みとして地震や豪雨等の防災対応を取り入れました。

これは行政や地域団体と連携を図り、ご参拝にいらした方や観光客の方々が災害に遭遇し帰宅困難者になられた時の対応として地域指定避難所以外の受け入れ先として当寺の一部を一時避難場所として開放し、そのための水、食糧、毛布等を緊急避難物資として常備し提供していくものです。

また、AEDの設置、山間部に位置する地域という事から、道路不通時に緊急搬送の為に駐車場をへりポートとして使用できるように登録、消防団協力事業所として認定（職員に消防団員）、職員のなかには看護師資格者を置く等の体制を整えています。

年間150万人もの方にご参拝いただいている現在、「心のよりどころ定義さん」として親しまれていますので、今後も安心してご参拝いただけるよう、職員一同、防火・防災意識を高め、行政、地域との協力を図らい複合的に取り組んでいきたいと考えております。



訓練参加者の様子



自衛消防訓練の様子